

第15回フィジカルヘルス・フォーラムのご報告

第16回フィジカルヘルス・フォーラムのご案内

平成25年3月29日

国立大学法人保健管理施設協議会フィジカルヘルス委員会委員長 立身政信
フィジカルヘルス・フォーラム会長 大塚盛男

第15回フィジカルヘルス・フォーラム コーディネーター 岡山大学保健管理センター 小倉俊郎教授

フィジカルヘルス・フォーラムは、名古屋大学総合保健体育科学センターの佐藤祐造教授が発起人となり、岡山大学保健管理センターの戸部和夫教授が事務局を担当され15年前にスタートしました。当初は1日のみの開催でしたが、第10回のフォーラムから2日間の開催となり、その間に少しずつ会員や参加者も増えて、現在は135名の方が会員として登録されています。この15年間には様々なことがあり、例えば第12回はパンデミック2009インフルエンザ、第13回・14回は東日本大震災の影響を受けた中での開催となり、日程の変更を余儀なくされたり、開催が危ぶまれる事態にもなりましたが、各回のコーディネーターの先生方や関係者の皆様のご尽力により、毎年欠かさず続けていくことができました。このフォーラムがこのように成長し続けて行っているのも、どの回もコーディネーターの先生方の知恵と工夫により、その時々によさわしい内容のテーマを企画していただいたご尽力のお陰であり、また参加された皆様も大変熱心に関与していただいたことによるものと強く感じています。

今回の第15回フィジカルヘルス・フォーラムは、岡山大学津島キャンパス創立五十周年記念館において開催され、会員72名、非会員50名、合計122名と多数の方が参加されました。講演4題、シンポジウム2題の構成で行われましたが、どの講演も大変興味深い内容であり、また我々が日常的に問題と感じている内容について講師の先生方が大変わかりやすくご講演いただいたこともあり、どのテーマにおいても大変活発な質疑応答があり、あっという間の2日間でした。大変ご多忙のところご尽力いただきましたコーディネーターの小倉教授や岡山大学保健管理センターの関係者の皆様にご心から感謝を申し上げます。また、ご講演いただきました先生方や座長としてご協力いただきました先生方にも御礼を申し上げます。

当日の講演メモと記憶をもとに概要を作成し報告させていただきましたが、内容を十分に把握できていない点や理解できていない点があるかと存じますので、詳細については後日配布されます報告書をご覧ください幸いです。ご講演いただきました先生方におかれましては、内容に失礼がありましたらご容赦くださいますようお願い申し上げます。

第1日 3月20日(木)

1. テーマ1：大学生における今日の問題

講演1 「G I Dの現状と望まれる大学の対応」 岡山大学大学院保健学研究科 日本G I D学会理事長 中塚幹也先生： G I D(性同一性障害)についてわかりやすく解説され、障害を有している人が抱える問題点を指摘された。G I Dでは、性自認(心の性)と身体の性と異なる状態であり、物心ついた頃から性別違和感が生じ、二次性徴が起きるとさらに強くなり自身の身体の性を強く嫌い、性自認に一致した社会的性役割をとろうとするため、社会との摩擦が起きやすく、不登校、自殺念慮、自殺未遂・自傷行為、辞職等の問題が高率に見られる。治療として身体的特徴を性自認と適合する性別へ近づけるためのホルモン療法、乳房切除、性別適合手術などが行われる。また、同時に社会への適応のサポートを中心とする精神科領域の治療も行われる。

講演2 「企業側からみた大学生の気質」 ベネッセホールディングス代表取締役副社長 福原賢一先生： 自社で行った調査結果を基に、教育産業に関わる企業のトップとしての立場から、現代の学生の状況をどのように見ているのかをご講演いただいた。日本の大学生、特に中間層の学力の学生において学習時間が減少しており、世界の国々と比較し学力が低下している問題を取り上げられた。また、現代の学生の気質として、自主性・創造的態度、意欲等の点が弱く、前へ踏み出す力、考え抜く力、理解力・判断力が苦手な一方、非常に素直・まじめで協調性があり指示されれば一生懸命に働く学生が多いことを示され、このような学生気質を理解した上で、学生自身に自己分析や学習計画を立てさせたり、主体性を持たせ自己効力感が持てるような仕組み作りを行い、学生の成長感を高める取り組みを行うことが重要であると述べられた。

2. テーマ2：職員のフィジカルヘルス

シンポジウム「大学における職員健康診断と事後措置」

Overview：「大学の抱える職員健康診断の問題点」 広島大学保健管理センター 吉原正治先生： 事前にPHF 会員に実施したアンケート調査結果を基に、職員健康診断の問題点について overview された。アンケートでは、受診率、健康診断の実施時期や体制、健康診断後の事後措置・面接・保健指導・精密検査等の勧奨について、実施における問題点、職員健診での問題点などを調査され、各大学において直面している問題点や工夫、取り組みなどに関する自由記述についても紹介された。

1) 「特定保健指導が義務化されて以来、保健指導を学内実施してきた状況と課題」 徳島大学保健管理センター 前田健一先生： 厚生労働省の報告では平成 23 年度の特定保健指導の実施率は 17.8%と高くなく、大学保健管理センターでも実施している大学は少ないと思われるが、そのような中で徳島大学保健管理センターにおいて実施されてこられた取り組みが報告された。担当の保健師の配置や他の看護職の協力で実施が可能であったこと、厚生労働省のシステムに基づき面接や電話等での指導を実施し、受診率は約 75%と高く、約 50%の受診者に効果がみられこと等が述べられた。

2) 「健診未受診者・事後措置向上のための工夫」 宮崎大学安全衛生保健センター 江藤敏治先生： 宮崎大学において健診受診率や事後措置受診率の向上のために実施されてこられた取り組みについて述べられるとともに、吉原先生が実施されたアンケート調査において、自由記述部分に記載されていた健診未受診者への対応や健診後の事後措置等に対する工夫や取り組み、実施においてみられる種々の問題点について、解説・コメントも交えて丁寧で紹介していただいた。

3) 「教職員・学生を対象とした有害業務健診の状況」 愛媛大学総合健康センター 岡田克俊先生： 有害業務に関する健康診断や健康管理の概要を述べられるとともに、大学における特殊健康診断の現状についてのアンケート調査の結果が報告された。有害業務の管理については、作業管理、作業環境管理、健康管理の 3 管理の大原則に基づいて実施すること、特に前 2 者の重要性が強調された。アンケート調査では、対象者のいる大学では、教職員にはほぼ全てで健診が実施されているが、学生に対しては約 60%の実施率であること、対象の選別も自己申告が多いことが述べられ、学生の取り扱いや対象者の選別、健診記録の管理体制等の問題点を指摘された。

3. 業務連絡 (1) 次期開催校：第 16 回フィジカルヘルス・フォーラムは、長岡技術科学大学保健管理センターの三宅 仁先生にご担当いただくこととなり、三宅先生から概要をご報告いただいた。また、第 17 回の担当は北海道地区で、室蘭工業大学保健管理センターの佐々木春喜先生にご担当いただく予定となった。(2) フォーラム役員の交代：北海道地区の北海道大学保健センター 武蔵 学先生が今年度でご退職のため、室蘭工業大学保健管理センターの佐々木春喜先生がフィジカルヘルス・フォーラム世話人及び国立大学法人保健管理施設協議会フィジカルヘルス委員会委員に就任されることとなった。(3) 退職会員のご挨拶：今年度でご退職になられる北海道大学保健センター 武蔵 学先生、大阪大学保健センター 杉田義郎先生、愛媛大学保健管理センター 佐伯修一先生、宮崎大学安全衛生保健センター 江藤敏治先生からご挨拶があった。(4) 新会員紹介：千葉大学総合安全衛生機構 今関文夫先生、齋藤佳子先生、東京医科歯科大学保健管理センター 宮崎泰成先生、京都工芸繊維大学保健管理センター 荒井宏司先生、岡山大学保健管理センター 大西 勝先生、清水幸登先生、古賀 光先生、河原宏子先生、名古屋大学総合保健体育科学センター 山本明子先生、関西学院大学保健館 佐藤 洋先生、山口大学 大学教育機構保健管理センター 奥屋 茂先生を新会員としてご紹介させていただいた。

参加者数 122 人

第 2 日 3 月 2 1 日 (木)

4. テーマ3：大学生のフィジカルヘルス

シンポジウム「健康管理のピットホール ～健康診断における留意点～」

Overview：「学生健康診断における留意点」 岡山大学保健管理センター 岩崎良章先生： 学生の健康診断において遭遇する疾患・異常に対する対応において注意すべき点、比較的まれではあるが緊急を要し治療に結びつけなければならない疾患と比較的よく見られ教育や指導に結び付けるべき疾患について例を挙げて概説されるとともに、岡山大学保健管理センターにおける状況や実施されている取り組みについて紹介された。

1) 「若年者の検尿異常と CKD (慢性腎臓病)」 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 CKD・CVD 地域連携・

心腎血管病態解析学 前島洋平先生： 先ずCKDについての overview をされ、無症状で頻度が高く透析に移行することも多いことや心血管疾患の発症の危険因子となることが強調された。学生健診でも尿蛋白が2+以上や尿蛋白と尿潜血がともに1+以上の場合には精密検査が必要で専門医に紹介すべきであると述べられた。学生の場合はIgA腎症が多いこと、慢性腎炎は減少傾向にあること、肥満やメタボリックシンドロームもCKDに結び付く可能性があり要注意であることも述べられた。

2) 「若年者の甲状腺疾患とその対応」 岡山大学大学院教育学研究科(岡山大学病院内分泌センター) 三村由香里先生： 甲状腺疾患として、甲状腺腫大と機能異常について概説されるとともに、岡山大学の新入生に実施した健診状況についても紹介された。甲状腺腫大にはび慢性と結節性があり、後者には甲状腺癌も含まれる。甲状腺癌が発見された学生の紹介があり、丁寧な触診が重要であると感じられた。機能異常としては、橋本病やバセドウ病等があり、大学生においてもみられるが、前者は大学生の約5%にみられると述べられた。

3) 「アレルギー疾患対応における注意点」 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 血液・腫瘍・呼吸器・アレルギー内科学 金廣有彦先生： 岡山大学の学生健診におけるアレルギー疾患調査についての結果を紹介されるとともに、気管支喘息とアナフィラキシーについて概説された。学生の63%にアレルギー疾患がみられ、特にアレルギー性鼻炎が最も多いことや複数のアレルギー疾患を合併していることが述べられた。大学生における気管支喘息の問題点として管理や治療が不十分になりやすいことが強調された。また、運動誘発喘息の管理とドーピング問題との関連、ハチ刺されやラテックス等によるアナフィラキシーとその対応についても述べられた。

5. テーマ4：大学における危機管理

講演1 「スチューデントクライシスマネジメント」 広島大学保健管理センター 内野悌司先生： 学生相談を担当されている立場から大学における危機管理について研究されてこられた内容について述べられた。危機への対応のためにはリスクの認識と評価が重要であり、そのためには事前に事件・事故を抽出し認識し整理し、組織が優先して取り組むべきリスクの選択を行う必要があると強調され、具体的な対応方法として、シナリオプランニングの技法を用いた自殺モデルの事例研究を例に挙げて解説された。詳細は、研究成果報告書「大学キャンパス内における事件・事故等への危機対応システムに関する臨床心理的研究」を参照していただきたいとのことであった。

講演2 「健康危機管理：大学への期待」 岡山市保健所長 中瀬克己先生： 肺結核や腸管出血性大腸菌感染症の事例を例に取り保健所の取り組みについて述べられた。前者については接触者検診の方法が述べられ、大学との情報の共有化の重要性が強調された。後者については、感染経路の調査の重要性が強調され、広域食中毒の事例の場合には全国の保健所や国レベルでの情報の共有化が必要になることを述べられ、そのシステムについての紹介もあった。大学において感染症の対応窓口となる保健管理センターは、保健所との緊密な連携体制を構築しておくことが必要であると思われた。

6. 施設見学 岡山大学保健管理センター

岡山大学保健管理センターを自由見学としていただいた。

第16回フィジカルヘルス・フォーラムのご案内
コーディネーター 長岡技術科学大学 体育・保健センター 三宅 仁教授
日時 平成26年3月19日(水)、20日(木)
場所 シティホールプラザ「アオーレ長岡」 1F 市民交流ホールA
多数のご出席を宜しくお願い致します。
詳細は、PHFのHP <http://www.melabq.nagaokaut.ac.jp/PHF>
で随時掲載される予定とのことですので、ご確認ください、

追記：1. HP でオーガナイズドセッション「大学生・教職員のフィジカルヘルスとメンタルヘルス」のオーガナイザーを募集しています。コーディネーターまでご連絡ください。

2. プログラムの概要

3月19日(水)には、産業医中心のプログラムを予定しています。

テーマ1 「大学における安全衛生」

講演「長岡技術科学大学における新しい安全評価法（SDS）の開発と実践（仮題）」

演者 長岡技術科学大学教授 福田隆文

シンポジウム「大学における安全衛生」

意見交換会は 寺泊 カニの宿「きんぱち」（カニ食べ放題）6,000円 を予定しています。

3月20日（木）には、内科系中心のプログラムを予定しています。

テーマ2「大学生・教職員のフィジカルヘルス

オーガナイズドセッション「大学生・教職員のフィジカルヘルスとメンタルヘルス」